

平成28年度「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」事業概要（横手市）

1 市の概要(人口 93,816 人)※平成28年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(平成28年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
4 園	4 園	0 園	30 か所	0 園	0 園	17 校

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 教育・保育を所管する課に専門的知識を有する指導員の配置がなく、十分な指導を行うことができない。
- (2) 教育・保育施設と小学校との連絡会の設置等についてばらつきが見られる。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)

教育・保育アドバイザーを配置することにより、教育・保育の質を更に向上させていく。また、市全体の連絡会を設置する等により、小学校への接続がしやすい環境を整える。

主な内容(3年間)

- (1) 指導・助言体制の構築
 - 教育・保育アドバイザー（専門員）による指導・助言の実施
 - 横手市幼小連絡協議会設立（下部組織として、小学校単位の連絡会を設ける。）
 - 就学に向けた教育委員会相談窓口の明確化
- (2) 課題に応じた研修会等の実施
 - 小学校との接続を見通した教育・保育課程の作成
 - 目指す5歳児のすがたを実現するための指導計画立案、環境構成（外部講師による指導を受ける）
 - 小学校教職員による一日保育士（保育教諭）体験・保育士（保育教諭）による学校体験、教育委員会指導主事と園児との交流による就学前教育・保育の理解促進
- (3) 研究の推進
 - 沼館保育園をモデル園とする。
 - アプローチカリキュラムの素案作成
 - 公開保育実施及び評価の他園へのフィードバック
- (4) 成果の発信・取組の普及
 - モデル園における公開保育
 - モデル事業終了後も続く恒久的な体制の構築

年度別重点

平成28年度	幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿のイメージの明確化、それを活かした保育実践
平成29年度	小学校との接続を見通した教育・保育課程の編成に向けた園内研修の実施、接続期カリキュラムの編成
平成30年度	小学校単位の連絡会を活用した接続期カリキュラムの実践・評価

4 平成28年度の具体

目的				
幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿のイメージの明確化、それを活かした保育実践				
実施内容				
<p>(1) 指導・助言体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アドバイザーを配置し、秋田県等の行う研修に参加することにより、育成を図る。 ○ 施設訪問、指導監査を通し、幼小接続等に係る実態や各園で抱える課題等を把握する。 <p>(2) 課題に応じた研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 9/10 (土) 保育実践向上研修会① 秋田大学教育文化学部 奥山順子教授 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿をイメージしつつ、子どもの育ちを支えるためには、どのように子どもを理解し、保育者がどのように関わればよいかを学ぶ。 ○ 9/23 (金) 保育実践向上研修会② 日本女子体育大学 天野珠路准教授 天野先生から実際の保育を見てもらいながら、4・5歳児の発達に合った環境構成を学ぶ。 ○ 12/10 (土) 保育実践向上研修会③ 日本女子体育大学 天野珠路准教授 実践をどのような観点で評価し、次年度につなげるかを学ぶ。 <p>(3) モデル園における研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿の明確化を行う。小学校との連絡会において、アプローチカリキュラムを編成する。 <p>(4) 成果の発信・取組の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 9/23 (金) の研修会を公開する。 				
検証・評価計画				
	内容	目標となる指標	時期	評価方法
1	教育・保育アドバイザーの配置	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全園に対し、教育・保育アドバイザーの役割を周知する。 ・教育・保育アドバイザーが市内全園を訪問し、園のニーズに対応した指導・助言をする。 	6/28 9～ 12月	園長等への聞き取り調査
2	保育実践研修会①～③	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した保育者の今後の保育実践に役立つ内容にする。 	9月 12月	研修会後のアンケート
3	モデル園における研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との接続を見通した教育・保育課程の編成に向けた園内研修を行う。 ・小学校との連絡会において、アプローチカリキュラムを編成する。 	秋頃 年度末	モデル園への聞き取り調査

3 平成28年度の実施状況

(1) 指導・助言体制の構築

◇教育・保育アドバイザーの施設等訪問状況(平成28年7月～平成29年3月)※見込み含む						
	幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	小学校
施設・校数	4園	4園	0園	30か所	0園	17校
訪問施設・校数	4園	4園	園	30か所	園	17校
訪問回数	8回	8回	回	58回	回	17回
月平均訪問回数	1回	1回	回	6～7回	回	1～2回
目的	<ul style="list-style-type: none"> 教育・保育アドバイザーの存在を伝えるとともに、各施設の状況を把握する。 教育・保育アドバイザーの専門性を向上させる。 					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 各保育関係団体及び小学校に対し、事業の周知を行った。 教育・保育アドバイザーの専門性向上のため、各種の研修会に参加した。また、保育所等の要請訪問に同行した。 各施設の状況を確認するとともに、「気になる子」の保育や幼保小連携方法についてのアドバイスをを行った。 保護者からの相談を受け、入学予定小学校長へ仲立ちを行った。 本事業の展開にあたっては、教育・保育アドバイザーのみならず事務担当者も教育・保育の内容について理解していくことが必要であり、事務担当者も他市の公開保育へ参加した。 <p>[保育所への聞き取り内容] (配置について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全員で、直接教育・保育アドバイザーの話を聞いたことで、自分たちのものにすることができた。 ちょっとした疑問の解決ができた。ほめられたことで、自信につながった。 話しやすかったのがよかった。寄り添ってもらえた気がした。 どんな場面で活用できるのかわからなかった。 訪問時に教育・保育アドバイザーに相談したものの、そのままになってしまった。 市役所に1人では足りない。園内研修が充実するよう、ミドルリーダーを育成してほしい。 <p>(手続き等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育・保育アドバイザーの派遣を要請する際、どのような方法で、どこへ申し込めばよいか分からなかった。 南教育事務所の要請訪問と教育・保育アドバイザーとどういった棲み分けか分からなかった。 <p>※ 別途事業評価のためのアンケートを実施する。</p>					

(2) 課題に応じた研修会等の開催

目的	<ul style="list-style-type: none"> 9/10 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿をイメージしつつ、子どもの育ちを支えるためには、どのように子どもを理解し、保育者がどのように関わればよいかを学ぶ。 12/10 保育所保育指針に基づいた環境の構成と保育者の援助について学ぶ。
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 9/10 (土) 保育実践向上研修会① 講演「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿を意識した保育者の関わりについて」 講師 秋田大学教育文化学部 教授 奥山順子氏 参加者 教育・保育施設 61人、市 10人 <p>[アンケート結果] 回答数 34 (回収率 100%、うち研修会に出席したもの 28)</p> <p>実践に活かそう 24 / 活かしにくい 3</p> <p>→ 活かしにくい理由として、「理想的ではあるが、人的・時間的余裕が無い」との声があ</p>

	<p>った。 会場の広さ、開催月、開催曜日、開催時間については、適切との回答が大半であった。</p> <p>○ 12/10 (土) 保育実践向上研修会③ 講演 「保育の環境構成及び評価について」 講師 日本女子体育大学 准教授 天野珠路氏 参加者 教育・保育施設 59 人、市 20 人 (うち大館市 12 人) ※ 別途事業評価のためのアンケートを実施する。</p>
--	--

(3) モデル園における研究の推進

目的	<p>○ 公開保育 専門家に実際の保育を見ていただきながら、4・5 歳児の発達に合った環境構成を学ぶ。</p> <p>○ 雄物川地域における小学校との連絡会への助言 (予定)</p>
実施状況	<p>公開保育と講師による評価 「4・5 歳児に合った環境構成について」 講師 日本女子体育大学 准教授 天野珠路氏 参加者 教育・保育施設 46 人、小学校 1 人、市 18 人 (うち大館市 10 人) [アンケート結果] 回答数 34 (回収率 100%、うち研修会に出席したもの 27) 実践に活かそう 22 / 活かしにくい 5 → 活かしにくい理由として、「年齢ごとに配慮が必要な点や個別記録等がよくできなかった」「一斉活動や教育的活動がなかった」との声があった。 会場の広さ、開催月、開催曜日については、適切との回答が大半であった。 また、「手作りおもちゃが参考になった」「片付けまで見たかった」「グループ討議にモデル園の先生が入れば疑問の解決になった」との声があった。</p>

(4) 小学校への円滑な接続に向けた取組

目的	<p>○ 小学校教諭及び保育士等による職員交流事業 [保育士等による学校体験] 子どもの成長発達を確かめる (助言を含む。) とともに、小学校につながる保育のねらいを意識するために小学校の子どもの姿を実際に体験する。 [小学校教諭による保育所等体験] 幼児期の子ども理解や保育理解のために保育所等の指導の実際を体験する。</p> <p>○ 小学校間の情報共有による連携の充実</p>
実施状況	<p>○ 小学校教諭及び保育士等による職員交流事業 [保育士等による学校体験] 保育所 29 園 (41 人) / 認定こども園 4 園 (5 人) [小学校教諭による保育所等体験] 17 校 (保育所へ 50 人、認定こども園へ 1 人)</p> <p>○ 横手市教育推進委員会特別委員会における幼保小連携委員会の設置 [保育所への聞き取り内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> これまであまり交流してこなかった学区内の小学校と歩み寄る機会になった。 従来は小学校の滞在が 30 分程度であったが、1 日いてもらえたのが理解につながった。 情報交換のみならず、互いの良い取組を取り入れる等により共有できた。

4 事業の成果及び今後の課題、改善の方策

(1) 指導・助言体制の構築

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会参加、要請訪問同行等により専門的知識を蓄積することにより、専門的な助言が可能になった。 ・入学に向けての相談がしやすくなった。 ・横手市家庭教育ガイド『えのめんこ』の作成に携わり、小学校長や保護者、保育士等に就学に向けて必要な情報を提供した。 ・学校教育課と子育て支援課で月2回の定期的な打合せを行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観とその振り返りの時間を同日の内に確保することが困難である。 ・県に配置されている教育・保育アドバイザーとどのように連携を取っていくか検討していく必要がある。 ・就学前施設ごとに異なる課題に対しての助言や支援のあり方を検討することが必要である。 ・教育委員会の教育・保育アドバイザーと子育て支援課の専門員の共同活動が少なかったため、活動しやすくするために、双方のスケジュール調整や関係部署との調整を図る必要がある。 ・教育・保育アドバイザーが配置されていない期間に事業計画を立案するのは困難であった。 ・研修等で得た知識が個人のものとならないよう、また、翌年度以降につながるよう、共有していく必要がある。 ・教育・保育アドバイザーがどんな場面で活用できるのか理解されていなかった。 ・専門的知識を要する当事業を推進するため、専門知識を有する教育・保育アドバイザーと事務担当者がどのように連携していくのがよいのか、道半ばである。 ・事業を進めるにあたり、教育・保育施設の所管が福祉部局であることから、教育委員会が中心となることは実質的に難しい。事業の所管は教育委員会中心であるが、事業を展開する上では施設を所管する福祉部局の負担がかなり重い。
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・県に配置されている教育・保育アドバイザーと連携し、助言のあり方の研修を深める。 ・教育・保育アドバイザー設置のねらいを改めて話し合い、具体的な活動内容、派遣依頼の方法等を周知していく。 ・研修等に参加した内容をとりまとめ、回覧し、情報共有する。 ・ミドルリーダーの育成については、ハイレベルな指導が求められると思われるため、長期的に検討していく。 ・引き続き、相手方の気持ちに寄り添いながら、指導に臨んでいく。 ・事務担当が行う部分、教育・保育アドバイザーが行う部分をはっきりと線引きすることは望ましくないとされるものの、どの部分が負担になっているのか洗い出すことで、事業に係る負担を共有できるよう検討する。

(2) 課題に応じた研修会等の開催

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1園あたり3人程度の参加があり、身近な場所で開催したことにより、より多くの保育者に対し、研修の機会を提供できた。 ・施設間での情報交換の機会を提供できた。1法人1保育所経営が多い本市においては、貴重な場になったと思われる。 ・(9/10)「これまで良いと思って実践していたことを省みた。」「子どもの理想の姿よりも目線に沿った保育を心がけることの大切さを改めて感じた。」等、自らの保育を振り返る機会を提供できた。 ・(12/10) 9/23に沼館保育園の公開保育を実施していたことと、講師が公開保育と結びつけてくれたことで、講義内容と実践が結びつきやすかった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に議論できるような時間配分としておく必要がある。 ・理想と現実のギャップを感じている保育所もあり、その施設に応じたきめ細かな指導を行って

	<p>いく必要性を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の目的を「小学校への円滑な接続」としているため、小学校教諭等の参加ができないか。
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・実践と結びつくような講話・演習の形式を検討していく必要がある。一方で、短期的な成果のみを求めず、質の向上について、長期的なものとの短期的なものをバランスよく提供していくことが必要ではないか。 ・漠然とした「忙しさ」を解消するため、活用できる加算を紹介する等の方策を検討していく。 ・市の課題や各園のニーズに関して共通認識を持つため、就学前施設と小学校合同の研修会を開催する。 ・演習において、グループを小学校区ごとに編成する等により、小学校が興味を持つような形式を検討していく。

(3) モデル園における研究の推進

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者から「環境構成、保育士配置、配慮等を実際に見て、学ぶところがあった。」「横手市内の公開保育は最近行われていないので新鮮であった。」等の声が聞かれた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者からは、グループ討議及び講師の講話の時間が短く、もったいなかったとの意見が多かった。時間配分を検討する必要がある。 ・研修のねらいと活動のつながりが良く分からなかったとの意見があった。 ・研修会後にモデル園、市等関係機関で評価する機会を設けることができなかった。
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議及び講師評価の時間を確保することにより、十分な検討ができるようにしたい。 ・公開保育を行う前に、モデル園の保育の状況を十分に把握しておく。 ・ねらいと実践が結びつくよう、4・5歳児の公開保育に絞った方が良かったのではないか。 ・公開保育開催後にモデル園、市等関係機関で評価することを計画に盛り込んでおく。また、早い時期に評価を行うことで、課題や改善点を見出す。 ・参加者側の「見る力」を育てていく必要がある。見るべき点を提示する等の方法が考えられる。 ・言語化により、発信力を高めていく。

(4) 小学校への円滑な接続に向けた取組

成果	<p>○小学校教諭及び保育士等による職員交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験により、小学校と保育所等双方での学びの違いと子どもの姿への理解が深まったことから、より多くの職員が交流体験をするべきだという意識が広がった。 ・幼保小の違いを知るとともに子どもの育ちの現状を把握し、接続期のカリキュラム作成に向けて、今後の課題を確認することができた。 ・就学前施設と小学校双方の課題が見えた。解決策について、部局を超えて、教育委員会と子育て支援課で検討することができた。 <p>○小学校接続に関する体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連携委員会（横手市教育推進委員会特別委員会における部会）を通じて、小学校全体に情報が行き渡る体制を構築することができた。
課題	<p>○小学校教諭及び保育士等による職員交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験による気付きを、より良い幼小連携につなげるような活用方法の検討が必要である。 ・小学校1校に対し就学前施設が5～6施設ある地区では、各就学前施設に向く小学校側の調整が必要である。 ・事業のねらいを十分に捉えられないまま、取り組んでしまったケースがあったと思われる。 <p>○小学校接続に関する体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校間の情報共有と連携のあり方のさらなる検討が必要である。

改善	<p>○小学校教諭及び保育士等による職員交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1校に対し就学前施設が5～6施設ある地区では、市が適切に関わりながら無理なく事業が継続できるよう配慮していく。 ・事業のねらいを市内部でしっかりと話し合うとともに、十分に伝わるよう周知方法を検討する。 ・事前に打合せすべきことや体験の気付きを振り返ることができる内容を報告書様式に盛り込むこと等について検討する。 <p>○小学校接続に関する体制整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円滑な接続に向けた取組を充実させるため、体制を整備していく。
----	---

5 平成29年度の事業見通し

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との接続を見通した教育・保育課程の編成に向けた園内研修の実施 ・小学校接続に係る課題解決の体制整備 ・モデル園における接続期カリキュラムの編成
実施内容	<p>(1) 指導・助言体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会に参加する等により、引き続き教育・保育アドバイザーの専門性の向上に努める。 ・園内で継続して園内研修を実施していけるよう、園内研修へ参加していく。 <p>(2) 課題に応じた研修会等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は就学前施設を対象とした研修会について、小学校の参加も促していく。 ・「言語化」について、付箋を使った方法等、研修方式の普及を図る。 ・漠然とした忙しさに対し、記録を取る際のポイント等を伝えることにより、質の向上とともに省力化もねらえるのではないかな。 <p>(3) モデル園における研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修にアドバイザーが参加することにより、モデル園として質の高いものを提供できるよう指導していく。 <p>(4) 小学校への円滑な接続に向けた取組</p> <p>① 小学校教諭及び保育士等による職員交流事業</p> <p>より多くの職員が、相互理解を深めることができるよう、継続して事業を行っていく。</p> <p>② 給食体験</p> <p>園児の入学への期待を高め、学校給食への不安軽減を図るとともに、小学校と就学前施設双方が子どもたちの喫食状況の理解を深めるために実施を推奨していく。</p> <p>③ 横手市幼小連絡協議会(仮称)設立</p> <p>これまでも連絡会は何らかの形で存在していたが、その取組内容は様々であった。市と小学校・保育所・認定こども園の代表からなる協議会を設置し、小学校と保育所・認定こども園の接続に関する課題を解決する体制として、協議会及び連絡会の位置付けを明確化し、地域ごとの連携を密にする。</p> <p>具体的には、職員交流事業、給食体験、接続期カリキュラム等の話し合いの場として活用していく。</p>



